

<研究名称>

前立腺がんおよび転移性腎がんにおける再吸収阻害関連顎骨壊死（ARONJ：Anti-resorptive agents-related ONJ）の発生頻度に関する後ろ向き研究

<研究申請者>

泌尿器科 堀田 裕

<研究期間>

2017年1月26日から8月2日

<研究の目的・意義>

骨転移を有する前立腺がん、腎がんに対して骨修飾薬は骨関連事象抑制効果の点から広く普及している。特に去勢抵抗性前立腺がんでは骨転移を有する場合は予後不良であり、積極的に骨転移に対する治療が必要である。この場合、骨修飾薬による骨関連事象抑制効果が証明されている。一方、骨修飾薬の有害事象である顎骨壊死はQOLを著しく低下させるものである。しかし、その発症頻度を検討した研究は少なく、前立腺がんでは1～3%との報告はあるが、腎がんでの発症頻度は不明である。また、近年、転移性腎がんに対しては血管新生阻害剤などの分子標的薬が選択されることが多く、骨修飾薬との併用は顎骨壊死の危険因子との報告もあるが詳細は明らかでない。そこで本研究は、前立腺がん、腎がんのARONJの頻度、背景因子を調査し、ARONJの危険因子や予測因子を解析することを目的としている。

<実施内容（方法）、危険性（副作用）等>

2012年1月1日から2017年1月31日までに、前立腺がん及び腎がんに対してゾレドロン酸もしくはデノスマブが投与された症例で、顎骨壊死発症率を主要評価項目とし、前立腺がんと腎がんにおける顎骨壊死に有意差の可能性のある項目を評価する。

<実施責任者・実施に関わる者の氏名>

責任者 泌尿器科 部長 堀田 裕

協力者 泌尿器科 副部長 宮本 慎太郎

泌尿器科 医師 桐澤 崇宏

<実施場所、対象患者等>

場所：泌尿器科外来

患者：2012年1月1日から2017年1月31日までに前立腺がん及び腎がんに対してゾレドロン酸もしくはデノスマブが投与された症例。

<倫理上問題になると考えられる事項、その他特記事項>

なし

<ICのための説明・同意に関すること>

なし

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 泌尿器科 堀田 裕

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648